

## おわりに

このガイドブックでは、視覚障害教育用の触察立体教材作成のための3Dプリンターの活用に焦点をあてて3Dプリンターの活用法を紹介しました。

近年の普及タイプの3Dプリンター、3Dスキャナー、そして関連するソフトウェアの開発はめざましく、さらに発展していくものと思われます。3Dプリンターの普及、発展は、視覚障害教育用の触察立体教材作成に大きな恩恵をもたらしてくれることが大いに期待されます。

しかしながら、3Dプリンターがあれば何でもできるという誤解も生じやすいものです。3Dプリンターがあるから利用するという姿勢では、児童生徒が有効に活用できる触察立体教材の作成は望めません。

3Dプリンターが普及する前に、触察立体教材作成という観点から3Dプリンターに「できること」、「できないこと」、あるいは「データの作成や造形作業で留意すること」などについて、しっかり理解啓発を図っていくことが大切であると考えます。そのような観点から本ガイドブックをまとめました。

この小冊子が、これからの触察立体教材の作成にいささかでも役に立つことができれば幸いです。



## 視覚障害教育用触察立体教材作成のための3Dプリンター活用ガイドブック

平成 27 年 3 月発行

発行 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
〒239-8585  
神奈川県横須賀市野比 5-1-1  
URL : <http://www.nise.go.jp>

---

○本資料に関する問い合わせ先

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

大内 進・金子 健



